

にら新品種「ゆめみどり」の連続収穫における実用性の実証

要約

にら「ゆめみどり」の収量は、4回の収穫で、5.2 t/10a で対照品種と同程度(97%)であった。「ゆめみどり」の品質では、温度の日格差が大きいことで誘発される表皮剥離の発生が多かった。

○ 展示のねらい

栃木県農試が育成したにら新品種「ゆめみどり」について、連続収穫における多収性、品質を実証する。

○ 主な成果

- ・暖冬により、低温遭遇時間が不十分と判断し、保温開始時期を遅らせたため、連続収穫回数は当初計画の5回より少ない4回となった。

	捨刈り	1 番刈り	2 番刈り	3 番刈り	4 番刈り
収穫日	1/8	2/4	3/2	4/5	5/17

- ・4回刈り取り合計の収量は、「ゆめみどり」は 5.2t/10a、対照品種「ハイパーグリーンベルト」は 5.3t/10a であった。
- ・平均 AL 品率は、「ゆめみどり」は 66.3%で、対照品種は 69.4%であった。
- ・表皮剥離は、「ゆめみどり」の2番刈りにおいて 11.1% 発生した。厳冬期において、ハウス内最低温度は氷点下になることがあった。また、最高気温は 40℃を上回る日があった。昼夜の温度較差が続くことにより、表皮剥離の発生が助長されたと考えられる。

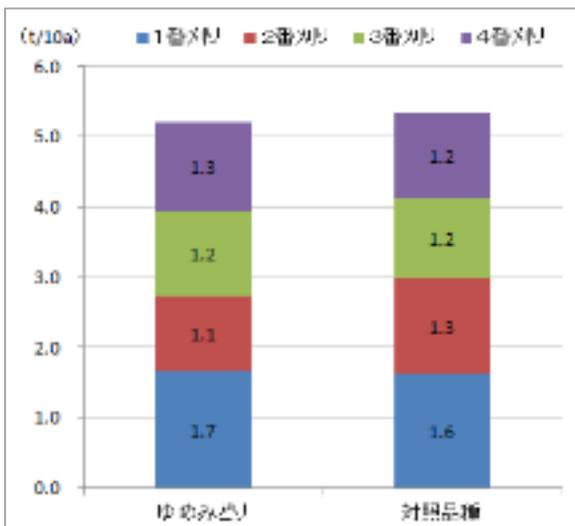


図1 番刈り別収穫量 (t/10a)

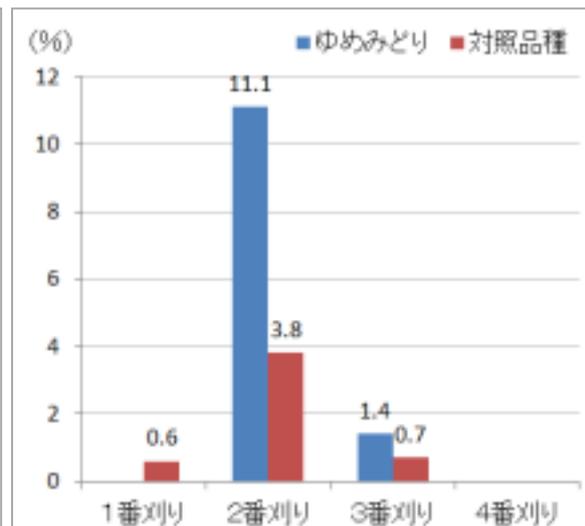


図2 番刈り別表皮剥離発生率 (%)

○ 今後の方向性

「ゆめみどり」は、昼夜の温度較差が大きくなりすぎると、表皮剥離が出やすい傾向にある。普及をする上で、昼間の換気の必要性、夜間の保温・ウォータカーテンの有効性を生産者によく説明し、理解・実行してもらう必要がある。

実施機関： 那須農業振興事務所経営普及部

実施場所： 那須塩原市

問合せ先： 栃木県農政部経営技術課技術指導班 TEL 028-623-2322 FAX 028-623-2315